

平成22年度 佐賀県立武雄高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標
高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。

2 学校経営ビジョン
①「質実剛健にして、報恩感謝の誠を尽くし、高志博学に励む」精神のもとに、中高一貫教育を推進し、学校教育目標の実現に努める。 ②生徒の進路第一志望の実現に向けて、3年間を見通した教育実践に努める。 ③家庭・地域社会との相互理解を通して、開かれた学校、信頼される学校づくりに努める。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
①「質実剛健、報恩感謝」の精神を涵養させ、基本的な生活習慣、規律ある生活態度、豊かな人間性を持った生徒の育成に取り組む。 ②「高志博学」の精神を涵養させ、学問に対する貪欲な姿勢、向上心を持った生徒の育成に取り組む。 ③「武高さくらプラン、部活動等」を充実させ、自主的、自立的な姿勢を持った生徒の育成に取り組む。 ④学校からの情報発信を頻繁に行うとともに、発信内容を充実させ、家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校・信頼される学校づくりに取り組む。 ⑤武雄青陵中学校との連携を充実させ、中高一貫教育の推進に取り組む。	①2年と3年の2年間の受験指導を含めた進路指導計画を更に充実させ、進路指導部と学年団が密に連携して指導していく。 ②生徒の活動の幅を広げるために、今後も「総合的な学習の時間」等を利用した活動を継承し、生徒が多くの体験を共有できるよう、校外活動への積極的な参加をさらに進めていく。 ③今後も、服装の乱れ等をなくすことで、基本的な生活習慣の確立を目指す。 ④保護者・地域への学校情報発信をさらに密にし、連携のあり方を見直すことで、信頼される開かれた学校づくりを促進する。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
学	○学校運営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標を知っている保護者の割合を80%以上にする。	B	・保護者アンケートによると重点目標を「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせると71%であった。	・PTA総会、学年保護者会、学年通信、広報紙及び学校のホームページを通して、随時周知を図る。	・来年度以降も保護者に対して様々な場で本校の運営方針を周知していきたい。
	○教職員の資質向上	学問への興味を喚起させ、学力をつける授業の実践	・自己目標申告による目標達成を図る。 ・大学入試問題の研究をする。 ・授業研究会を各教科で年2回実施する。	A	・大学入試問題の研究は90%近くの職員がノートにまとめた。 ・授業研究会は、どの教科も年2回実施することができた。	・自己目標を設定・申告し、それぞれ目標達成を目指す。 ・教科指導に活かすため、前年度センター試験や九州大学等個別学力試験の問題を解く。 ・公開授業等を活用し、教科指導力の向上を図る。	・各教科間で入試問題研究及び授業研究会を実施し、教師の知見と教授力をさらに高めていきたい。
	校 運 営	○開かれた学校づくり	PTA総会や学年保護者会の充実	・保護者の出席率を60%以上にする。	B	・PTA総会出席率55.7%	・時期を見据えた進路講演会を実施する。
		中学生体験入学の充実	・中学生の出席率を入学定員の170%以上にする。	A	・入学定員120名に対し、体験入学の参加は241名であった。	・事前の広報周知を工夫する。 ・中学生の興味・関心を引く模擬授業を実施する。	・中学校での学校説明会で、さらに本校の特色を紹介できる内容にする。
		情報発信の推進	・広報紙「武陵」を年10回発行し、内容の改善を行う。 ・ホームページの更新を毎月行う。	B	・1年間に13回発行でき、内容の改善も図れた。 B	・外部掲示分はカラーで印刷する。 ・近隣中学校と共に、教育委員会や図書館等へも配布する。 ・HPは、年間20回更新ができ、EDQスクールニュースは随時更新できた。	昨年度は15回発行したので、内容の充実とともに、回数を増やしたい。 中学生へのページを充実させる必要がある。
教 育 活 動	●学力向上	指導方法の改善	・小テスト等の実施により、分野毎の到達度を確認し、年度末の到達度が70%以上になるようにする。	A	・生徒による授業評価によると、授業の理解度を「理解している」「だいたい理解している」を合わせると91%に達した。	・シラバスや到達度について、各教科で検討を行う。 ・教材研究に努める。 ・シラバスは5月下旬に生徒に提示する。	・到達度を数値化することは難しく、生徒の理解度で判断したが、来年度は具体的な目標の立て方を改善したい。
		実力の養成	・各科目全国偏差値を1年58、2年56以上を目指す。	B	・1月進研模試で、1年は3教科中1教科のみが達成できた。2年は10科目中5科目が達成できた。	・家庭学習時間(平日3時間・休日5時間以上)の確保に努める。	1日平均は、1年139分、2年160分、3年239分。
	●心の教育	思いやりの心の育成	・中高一貫教育校として、併設中学校の生徒との交流を通じ、思いやりの気持ちを高める。	B	・部活動での合同練習、交流が活発になった。また、ジョイントスタディーでは、中学生に学習支援を行った。	・開校記念登山を併設中学校生と行うことにより、中学生との交流を深める。また、道中でのゴミ拾いのボランティア活動にも取り組む。 ・併設中学校の生徒と合同部活練習の機会を昨年度より増やす。	・中高交流が物理的な理由で多くは望めないため、奉仕的な活動をさらに重視していく必要がある。
	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・欠席数を年間延べ700以下、遅刻数を500以下とする。 ・歯と口からの健康作りを推進する。 ・校内環境美化に努める。	B	・今年は、新型インフルエンザの影響もそれほどなく、1年間無欠席者が387名(44.4%)であった。	・年間皆勤賞を設け、表彰する。 ・ブラッシング指導を実施する。 ・美化コンクールを年間2回実施する。	・インフルエンザ関連の欠席は39名であった。 ・今年は嘔吐下痢の症状で休む生徒が多かったので、来年度は対応を考えたい。

教育生活動	○進路指導	進路希望の達成	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生徒が適切な進路選択ができるようにする。 1年総合偏差値60以上120名 2年総合偏差値58以上120名 3年国公立大学の合格150名以上、うち難関国公立大学・学部合格15名以上 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1年は1月進研模試で、総合偏差値60以上が119名。 2年は1月進研模試で、総合偏差値58以上が99名。 3年は、国公立大学合格者142名。うち全国難関国公立大学・学部合計15名であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会を1年次より計画的に行い、3年間を見通した指導を行う。 難関大学希望者への個別指導を早い時期から行う。 課題等の個別化等の工夫を図る。 文理コース分けの指導、面談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも3回ずつ検討会を実施している。検討会の内容を充実させたい。 1年次よりハイレベル補習を実施しており、3年次にはより充実した形で行っている。 難関大志望者への個人添削等の指導を、早期から実施したい。
	○生徒指導	基本的な生活習慣の確立 生徒会活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> 清楚清潔な身なりの指導 防犯意識の高揚 年間の生徒指導措置と交通事故の件数を0にする。 中高交流の活発化に取り組む。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 身なりについては、概ね良好であった。 生徒指導措置1件、交通事故件数0であった。 車での送迎の在り方について、苦情が寄せられた。校内で現金やスリッパの盗難被害や携帯電話の持ち込みが起きた。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任(学年)は生徒指導部や保健厚生部との連絡会や個別面談週間を学期毎に設ける。 集会等を利用して、服装・髪型や礼儀・躰指導を定期的に行う。 空き教室や自転車の、施錠を徹底する。 中高合同遠足や部活動の交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 車での送迎のマナーについてきちんと指導したい。 貴重品の管理を徹底させるとともに、携帯電話を持ち込まないように指導する。 傘の記名、持ち帰りを徹底させる。
	○図書館教育	読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> 耐震工事への適切な対応をとる。 校内読書会を実施する。 月1回、「図書館だより」を発行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間貸出数2,207冊。 移動図書館2回実施。 図書館だよりは、ほぼ毎月1回発行できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員の役割を徹底させる。 生徒の希望に応じて、年間数回の読書会を開催する。 館内に「特集コーナー」を設置し、「図書館だより」を使って紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書をもっと効率的に実施したい。 クラス読書会では、図書委員がよく動いた。 校内読書会を機に応じて実施した。
	○保健教育	学校保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 応急措置件数を2,200件以下にする。 視力異常者への指導を継続する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1,431件と大幅に下回った。養護教諭を中心に十分な対応ができた。 本人の指導と、保護者への連絡を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 内科的訴えに対応するため、相談時間を確保する。 経過観察し、10月にも視力の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康管理に努めていきたい。
特定課題	○さくらプラン	武高さくらプランの充実と進路達成の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> さくらプランの各教育活動の精選と充実を図る。 生徒の進路実現に寄与する、特色ある教育活動を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の探究入門や2年生のSPP(理系)、課題研究(文系)の取り組みは、全体としては良かったと思う。しかし、理系のクラス増に伴って、第一希望ではない講座を受講した生徒もおり、積極的な活動を促すためには、今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> SPPと課題探究等の充実発展させる。 小論文等への応募数を増やす。 講演会や様々なコンクール等への挑戦、生徒による体験発表等を実施する。 生徒・保護者の進路意識向上を図るため、各種講演会・出前講義等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> SPPや課題研究については、来年度は生徒の進路意識の向上に繋がるような講座の開催を検討していく必要がある。
	○中高一貫	併設中学校との連携を進める。	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる分野での交流を、学期毎に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者、生徒会、部活動の交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科や部活動の指導等で、職員間の交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 人事交流・共同開催行事等を通じて、さらに連携を深めたい。

6 総合評価
<p>保護者アンケートで本校教育の満足度を見ると、学力向上に関しては90%、進路指導は87%、生徒指導は89%が「満足」・「ある程度満足」という評価であった。</p> <p>生徒による授業満足度は3学年の合計で「満足」「だいたい満足」を含めると97%であった。しかし、生徒の満足度や達成意識は必ずしも模試の結果には十分には反映しているわけではなく、今後さらに家庭学習の定着と教科指導の工夫が必要である。</p> <p>平成22年度は「武陵」の発行、ホームページやEDQスクールニュースの更新は頻繁にできた。</p>

7 来年度の改善策
<ol style="list-style-type: none"> 併設型中高一貫教育校としての在り方や中高の生徒・職員間の教科指導、学校行事、部活動等での交流・連携をさらに進める。 高校3年間を見通した進路指導計画のもと、進路検討会など進路指導部と学年団の密な連携や授業研究会等教科力向上の取組に努める。 生徒指導部や保健厚生部と連携し、全職員で挨拶指導や生活指導に取り組み、基本的な生活習慣の確立を目指す。 「武高さくらプラン」を見直し、生徒一人ひとりの進路意識の向上につなげる。 保護者・地域と連携し、信頼される学校づくりを推進していくため、広報活動の充実をさらに進める。